

オリンピックピツクと スポーツ研究

シンポジスト紹介



スポーツ界を牽引する
高度専門職業人の道を
ここで拓こう。

オリンピック・スタディーズ
スポーツ史・スポーツ人類学の立場から

HISASHI SANADA

◆ シンポジスト

研究科長 予定者

真田 久 教授 **研究指導担当**

- 学位 博士(人間科学) 早稲田大学
- 研究領域 スポーツ文化・教育領域
- 学問分野 スポーツ史/スポーツ人類学
- 経歴 筑波大学体育系教授、体育専門学群長、大学院TIASアカデミー長を経て筑波大学名誉教授。東京2020大会組織委員会参与、日本オリンピック・アカデミー会長、日本スポーツ人類学会会長などを歴任。
- 担当科目 スポーツ科学特論
スポーツ科学研究方法論
スポーツ文化特論
スポーツ史特論
スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ

時間軸に沿った歴史学的な手法とフィールドワークを通じた地域を横断的に比較する手法を身につけ、スポーツの文化的価値について考えてみましょう。

✉ h.sanada@ipu-japan.ac.jp

◆ シンポジスト



TAKESHI ASAI

スポーツ工学が変える
オリンピック

浅井 武 教授 **研究指導担当**

- 学位 博士(工学) 山形大学
- 研究領域 スポーツ科学・実践応用領域
- 学問分野 スポーツバイオメカニクス/
スポーツコーチング学(集団種目)
- 経歴 筑波大学名誉教授。日本人スポーツ研究者として、はじめて国際物理学雑誌「Physica World」に論文が掲載された。スポーツ科学技術領域の普及、発展に尽力する。
- 担当科目 スポーツ科学特論
スポーツ科学研究方法論
スポーツバイオメカニクス特論
コーチング学特論Ⅱ(集団種目)
スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ

モーションキャプチャシステムや様々なセンサーを用いて、身体運動や用具の特徴を計測し、多角的に分析することにより、スポーツ技術や用具の向上を検討します。また、高速ビデオや官能検査、インタビュー等により、運動技術や用具との相互作用を検討し、運動感覚やイメージを基に、スポーツ技術や用具の向上を考察します。

✉ ta.asai@ipu-japan.ac.jp

◆ シンポジスト



TAKAHIKO NISHIJIMA

オリンピック競技の進化と
スポーツ運動学

西嶋 尚彦 教授 **研究指導担当**

- 学位 教育学博士 筑波大学
- 研究領域 スポーツ科学・実践応用領域
- 学問分野 スポーツデータサイエンス
身体活動情報分析学
- 経歴 筑波大学大学院を修了し(博士(教育学))、体育系教授として体育学(博士前期課程)と体育科学(博士後期課程)の学位プログラムにて体育測定評価学領域の研究指導担当を経て、筑波大学名誉教授。
- 担当科目 スポーツ科学特論
スポーツ科学研究方法論
スポーツデータサイエンス特論
身体活動情報分析学特論
スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ

アスリート育成などのデータ主導型スポーツ活動の課題を解決する実践・開発型の実証科学研究を推進するために、スポーツ分野の統計学、データサイエンス、アナリティクス、発育発達学、測定学、評価学における実験・調査方法とデータの測定、蓄積、加工、分析、表現の基礎的・先端的技術を学修します。

✉ t.nishijima@ipu-japan.ac.jp

◆ シンポジスト



ASTUSHI SANO

オリンピックを支える
スポーツデータサイエンス

佐野 淳 教授 **研究指導担当**

- 学位 博士(コーチング学) 筑波大学
- 研究領域 スポーツ文化・教育領域/
スポーツ科学・実践応用領域
- 学問分野 スポーツ運動学
コーチング学(個人種目)
- 経歴 筑波大学体育専門学群卒業、筑波大学大学院体育研究科修了。現在、筑波大学名誉教授、日本スポーツ運動学会会長、博士(コーチング学)。筑波大学在職中、体操競技部女子コーチ、女子監督、部長を歴任。
- 担当科目 スポーツ科学特論
スポーツ科学研究方法論
スポーツ運動学特論
コーチング学特論Ⅰ(個人種目)
スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ

運動やスポーツの現場にある、あるいは、現場に出ることで感じる現実の切実な問題にスポットを当てます。問題をしっかり受け止め整理し、そこに形態学や現象学的アプローチができることを目指します。そして、スポーツ運動学がそのための学問であることへの理解を深めています。

✉ a.sano@ipu-japan.ac.jp

◆ ファシリテーター 兼 シンポジスト



HIDENORI TOMOZOE

オリンピックと
スポーツ倫理学研究

友添 秀則 教授 **研究指導担当**

- 学位 博士(人間科学) 早稲田大学
- 研究領域 スポーツ文化・教育領域
- 学問分野 スポーツ教育学
スポーツ倫理学
- 経歴 早稲田大学教授、スポーツ科学学術院長、理事を歴任。日本体育科教育学会、日本スポーツ教育学会会長を務めた。スポーツ庁スポーツ審議会委員、日本学校体育研究連合会会長、大学スポーツ協会執行理事等を務める。
- 担当科目 スポーツ科学特論
スポーツ科学研究方法論
スポーツ倫理学特論
スポーツ教育学特論
スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ

スポーツは多くの学習可能性(learnability)を持っています。そのために、学校教育の中で重要な位置を占めてきました。他方、スポーツは様々な逸脱行為に代表される倫理的問題も抱えてきました。本研究指導では、スポーツの教育可能性をスポーツ教育学、スポーツ倫理学の研究成果を用いて考察していきます。

✉ h.tomozoe@ipu-japan.ac.jp